無聊吟社句

鹽野奇零

上手下手なくて揃えし田植かな　野鳥
暑き!!や軍馬五千の砂煙り　同
雨止んで蚊の聲高し厩口　同
夕立や一人氣のせく田舍道　一島
蚊遣してふと手枕や椽の先　同
河岸端や納涼に通ふ人斗り　同
風通りよき門先や夕納涼　柳
足洗ふ河岸の門杭や初ほたる　同
鍋墨をおとす手元や夏の月　同
旅人の尋ねあてたる清水かな　花月
泣た子の笑ふ話や夏の月　松月
歌聲の野山に遠き茶摘かな　要
手揃や面白さうに蚕の世話　花山
種瓜や八畝三歩の親ゆづり　白醉樓
五月雨や御所の御花に草生ひて　同
青梅やそつと子供の落し行く　同
夏草や由緒ある碑の埋もれて　同
散歩して風ひく冷や更衣　江南
水心に魚のおどりて杜若　千代女
肥くさき小溝の端や杜若　同
裾に白きしつけの糸や更衣　ます子
海少し見ゆる小窓や若楓　同
夕陽に牡丹の花や奥書院　曉霞
十丈の瀑をつゝみて新樹かな　同
山高く青葉の色や五月晴　同
納涼舟波ゆら〳〵と笛の音　同

追加

無一菴奇零

恨む身の寢覺に啼きぬ時鳥
朝雲の西に流れてかきつばた
衣かへて金魚放ちぬ庭の池
片々は鮹の笊や蜆うり
夕虹や庭一ぱいの若楓
家賣りて京に行く日や別れ霜